

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	芸術（工芸）	
科目基礎情報							
科目番号		0062		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 2	
開設学科		土木建築工学科		対象学年		2	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		なし					
担当教員		山田 哲生					
到達目標							
工芸と人間の関わりが理解できる。 造形技能と感性の統一された立体やオブジェをつくる態度が身に付き、技法と制作方法の基礎を身につける。 身近に使う物を工芸の視点からつくることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		基本を十分に意識して創作することができる。		基本を意識して創作することができる。		左記に達していない。	
学科の到達目標項目との関係							
到達目標 C 2							
教育方法等							
概要		美術のジャンルである絵画、彫塑、デザイン、工芸を理解させながら工芸分野に重点を置く。その中で陶芸を中心に置いて制作実習を行う。併せて感性と工学の調和した作品の制作を考え、伝統技法や現代工芸、民芸等について関心を引き出す。					
授業の進め方・方法		授業形態は制作を中心とし、創造性、技能、関心態度（集中力、精巧さ、持続力等）を高め、チェックリストと学習シートで確認する。					
注意点		評価法 作品評価 意欲（10） 構想力（20） 表現力（20） 技能（20） 態度（15） 準備物、集中力、精度、体の構え・物の構え・心の構えを中心に評価。当該項目を分かりやすく示し、自己評価を加味して評価。 知識（15） 材料の知識 各国工芸の現状の知識 機械と手をうまく利用した作品の論評 工芸史					
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	工芸のジャンルと概要			現代工芸、伝統工芸、民芸の3つの世界とその発展の歴史についての講義。クレイモデルやファインセラミックスについてもふれる。レポート提出。	
		2週	陶印制作 1			陶印の原型制作で、自己の風格を象形文字や篆書体で表し、石膏に彫刻する。のちのすべての自己制作品に押印させることを念頭に置いて作る。	
		3週	陶印制作 2			同上	
		4週	湯呑をつくる 1			手びねりで真っすぐな型の湯呑を作陶	
		5週	湯呑をつくる 2			同上	
		6週	湯呑を削る 1			出来た湯呑を専門的な道具で削り仕上げていく	
		7週	湯呑を削る 2			同上	
	2ndQ	8週	茶碗を作る 1			手びねりで徐々に角度をつけ茶碗を作陶する	
		9週	茶碗を作る 2			同上	
		10週	茶碗を削る 1			出来た湯呑を道具で削り仕上げていく	
		11週	茶碗を削る 2			同上	
		12週	皿を作る 1			手びねりでさらに角度をつけ皿を作陶する	
		13週	皿を作る 2			同上	
		14週	皿を削る 1			出来た皿を道具で削り仕上げる	
		15週	皿を削る 2			同上	
後期	3rdQ	1週	粘土を再製する			今まで削った粘土を再製し再び使用出来る粘土にする	
		2週	粘土を再製する			同上	
		3週	仮面をつくる			自分の顔をネックレスやブローチを想定し作陶させ彫塑の基礎と関連させる	
		4週	仮面をつくる			同上	
		5週	仮面をつくる			同上	
		6週	オブジェ			その時タイムリーな出来事や物から共通のテーマを選び独自の発想で作陶する	
		7週	オブジェ			同上	
		8週	オブジェ			同上	
	4thQ	9週	オブジェ			同上	
		10週	花入			手びねりもしくは固まりから一輪花入れの作陶をする	
		11週	花入			同上	

		12週	自由製作	今まで作陶したなかで、一番趣味を持ち又作陶してみたい物を選び作陶する
		13週	自由製作	同上
		14週	自由製作	同上
		15週	自由製作	同上
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	意欲	構想力	表現力	技能	態度	知識	合計
総合評価割合	10	20	20	20	15	15	100
作品評価	10	20	20	20	0	0	70
態度	0	0	0	0	15	0	15
知識	0	0	0	0	0	15	15